

野母崎夢塾

NOMOZAKI

夢塾





塾長 三浦 豪介

■ 塾長コメント ■

一昨年、長崎市が主催する野母崎地区に関するワークショップがあり、参加した地区の有志たちといろいろなことを話し合う機会がありました。

「なるほど、こんなに地区の事を考えている人たちがいたんだ。」それが私の感想でした。ならば、市主催のワークショップではなく、もっと自由に野母崎について話ができる場がほしい。そう思った矢先に、長崎伝習所が塾を募集していることを発見。すぐに友人2人の同意を得て、3人で塾を立ち上げることにしました。急ごしらえの塾ですが、3人で話し始めるとやりたいことは盛りだくさんで夢もいっぱい！

野母崎の未来の理想像をみんなで考え、どうしたらそういう町になるのかを勉強、共有したいということを塾の出発点としました。

塾生を募集した結果、野母崎の人、野母崎が好きなたちが集結。今年は野母崎の魅力の再発見、再確認ということを軸に活動しました。

■ 塾の目的 ■

「市町村合併によって疲弊してしまっている野母崎地区に希望があるのか。まずは50年後の野母崎の未来像を探り、そこにたどり

着くためにこれからどうしていけばいいのかを考える。水産業、農業、商工業といった産業の枠組みを動かすことは難しいが、この塾で、野母崎でしかできない楽しみ方、遊び方、暮らし方を見つけだし、それらを検証しつつインターネットなどで発信。野母崎で暮らしてみたいというファンづくりのきっかけを生み出す」。これが塾申請の際に申請書の目的欄に記入した内容です。

行政のまちづくり計画は5年、10年といった短期的な目標しかありません。勢い、目先の生活を便利にするためのインフラ整備が優先されます。戦後70年、暮らしや環境の合理化を進めてきた結果、自然豊かだった野母崎地区も、安全で便利な一方、人工工作物で囲まれた町になりました。失われてしまった砂浜は、かつてはコミュニケーションの場でもありました。そういう姿は見かけなくなり、いまや海と親しむ人たちも減少してしまいました。海に囲まれた町がこれでよかったのか疑問も湧いてきます。

だからこそ、将来、子や孫にどういう町を手渡すのがいいのか、そんなことを考える機会をつくることを一つの目標としました。そしてもう一つは、野母崎地区の魅力は今住んでいる人、そしてこれから住む人たちと一緒に発見し、発信することで野母崎ぐらしに興味をもつきっかけをつくることを目的としました。

■ 塾の研究・活動内容 ■

「野母崎の自然を活かした遊び、暮らし、文化活動などを実践することで魅力を探るとともに、50年先の魅力ある町を目指し、そこに到達するための夢の計画書をつくる。

可能なら冊子にまとめ、野母崎の住民や希

望する人に配布し野母崎の魅力を発信する。」以上が申請書に書いた内容です。実際の活動では魅力発見の方を優先して行なうことにしました。

今年度行ったイベントは下記のとおりです。詳しい内容については活動記録にまとめてあります。

8月28日

「のもざき夢塾展」

10月15日

「海辺の映画館～うみやまあひだ上映会」

12月3日

「野母崎星空観察会@Alega 軍艦島」

2月19日

「ありがとう亜熱帯植物園
～47年の歩みから未来を考える」

5月より10月末にかけて
季節はずれの海水浴体験！？

11月19、20日

福岡県福津市津屋崎地区視察

■ 塾活動の成果 ■

成果として次のようなものを目指しました。

- ①イベントを通して市民の輪を広げるとともに、野母崎の魅力を知ってもらい、ふるさとである長崎市の魅力を1人でも多くの市民に発信する。
- ②野母崎に住むことの魅力を知ってもらうことで人口流出を減らし、Iターン、Uターンによる人口増、ひいては長崎市全体の人口減の

歯止めをしたい。

これらは当然のことながら、1年目ですぐに成果を出せるものではありません。まずはイベントを通して、野母崎の楽しさ、そして野母崎に住む魅力を塾生一人ひとりが発見する機会になったと思っています。

「海辺の映画館」のイベントでは、県外からの参加者も含め50名近くの方たちが夜の野母崎まで足を運んでくださいました。浜辺での上映の予定が天候の都合で室内になりましたが、この企画の可能性を実感するものでした。

「星空観察会」にも30名近くの市民が参加してくれました。市街地と比べ星が多く見える野母崎の夜空でも、実際には外灯による光害を受けています。今回は会場となったAlega 軍艦島の協力を得て施設内の広場を完全消灯。光害対策をすることで、離島や高山の山頂に負けない星空観察ができるダークスカイタウンの可能性を感じていただけたと思います。

「季節外れの海水浴体験！？」では5月から10月末まで泳ぐことができる亜熱帯地方ならではの魅力を見つけられたように思います。

さらに同じような漁村でもある津屋崎地区(福岡県福津市)の視察旅行では、野母崎地区でも応用できるヒントをたくさん吸収することができました。

今年やりたくてできなかったこともたくさんありました。これを機会にもっと多くの人に参加していただきながらこの地区の魅力を発掘・再発見を続け、それらを活かす方法をみんなで模索していけたらと思っています。

野母崎夢塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
平成 28 年		
5 月 16 日(月)	長崎県勤労福祉会館	長崎伝習所「塾」開所式、第 1 回 塾会議
5 月 24 日(火)	コミュニティカフェ Ripple	第 2 回 塾会議
6 月 15 日(水)	コミュニティカフェ Ripple	第 3 回 塾会議
7 月 18 日(月)	コミュニティカフェ Ripple	第 4 回 塾会議
8 月 2 日(火)	コミュニティカフェ Ripple	第 5 回 塾会議
8 月 23 日(火)	コミュニティカフェ Ripple	第 6 回 塾会議
8 月 27 日(土)	コミュニティカフェ Ripple	のもぎき夢塾展 イベント準備
8 月 28 日(日)	コミュニティカフェ Ripple	のもぎき夢塾展 イベント当日
9 月 20 日(火)	コミュニティカフェ Ripple	第 7 回 塾会議
10 月 14 日(金)	コミュニティカフェ Ripple	海辺の映画館 イベント準備
10 月 15 日(土)	コミュニティカフェ Ripple	海辺の映画館 イベント当日
10 月 19 日(水)	アマランス	長崎伝習所 中間報告会
10 月 25 日(火)	コミュニティカフェ Ripple	第 8 回 塾会議
11 月 8 日(火)	コミュニティカフェ Ripple	第 9 回 塾会議
11 月 19 日(土)	津屋崎地区内	津屋崎視察 1 日目
11 月 20 日(日)	津屋崎地区内	津屋崎視察 2 日目
11 月 22 日(火)	コミュニティカフェ Ripple	第 10 回 塾会議
12 月 3 日(土)	Alega 軍艦島 芝生広場	星空観察会 イベント当日
12 月 11 日(日)	コミュニティカフェ Ripple	第 11 回 塾会議
平成 29 年		
1 月 18 日(月)	コミュニティカフェ Ripple	第 12 回 塾会議
2 月 19 日(月)	亜熱帯植物園研修室	ありがとう亜熱帯植物園 イベント当日
3 月中	コミュニティカフェ Ripple	成果品 作成会議
3 月 20 日 (月・祝)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり 調査内容パネルの展示、クイズなどを実施



2016年8月28日
「のもさき夢塾展」

2016年11月19,20日
「津屋崎視察」

平成28年度
野母崎夢塾
「こんなことを
やりました！」

2017年2月19日
「ありがとう亜熱帯植物園
～47年の歩みから未来を考える～」

野母崎
夢塾
2016-2017

2016年10月15日
「海辺の映画館
～うみやまあひだ上映会」

2016年12月3日
「野母崎星空観察会
@alega軍艦島」

『野母崎夢塾展』

@野母崎コミュニティカフェ Ripple

夢塾って何だろう？

地元の方や野母崎を訪れた方へ向けて開催した夢塾展。展示コーナーでは塾生が思いおもいに作った作品を飾りました。



「のもぎき暮らし」というテーマでつくったビデオも会場で上映し、それぞれの素敵な野母崎を紹介しました。



<ちょこ焼き作り体験>



塾生の作品にあった「ちょこ焼き」の記事を読みながら塾生達から「作ってみたい」と言う声が多数あがりました。そしてその場にあった材料で急遽、野母婦人会の方に来ていただき『ちょこ焼き作り体験』をしました。婦人会の皆様ご協力ありがとうございました。



季節はずれの海水浴！？

野母崎の海、実は5月から泳ぐことができます。夏休みだけしか泳がないなんて勿体ない！ということで5月からチャレンジ！

メンバーの一人は朝活に決めて10分程度の海水浴でリフレッシュ！とても気持ちよさそうに泳いでいました。

お盆頃はイラ(アンドンクラゲ)が発生して泳げなくなりましたが9月下旬にはいなくなって10月末まで泳ぐことができました。

ぜひ海水浴シーズンを見直しましょう！



『野母崎 海辺の映画館』

@野母崎コミュニティカフェ Ripple



いつか浜辺で波音を聴きながら

素敵な映画を観たいな～

海辺の喫茶店を営みながら、よくこんなことを思ったものですが…実現するまでにその時間はかかりませんでした。

残念ながら悪天候のため海辺の横のカフェ内での上映会でしたが、開け放ったテラス扉の向こうからはさざ波の音が心地よく聴こえ、より一層深く映画の中の世界に入り込むことができたように思います。

参加者からも「波のBGMが良かった」との感想が多く寄せられました。



【上映作品 うみやまあひだ】

伊勢神宮の式年遷宮を追ったドキュメンタリー映画。そしてその背景から見えてくる森と海の関係、その間にいる人間との関係までも考えさせられる作品。

the sea is longing for the forest.

海は山をおしたいもうしておられ

山は海をおしたいもうしておられる



海と山に挟まれた脇岬の上映会場で、まさに僕たちがこれから考えていくべきことのヒントを得た気分でした。

森と海は繋がっていて、互いに慕いあっている。その間に人が生きている。ならばやはり人も森や海、自然を慕いながら未来へ向かうべきではないか。自然と共に過ごす意識が薄れてしまった現代、野母崎の人と自然は貴重だと再確認。

上映会前日のリハーサルでは月明りと星空、そして波音が最高の環境を作っていました。きっとまたリベンジするので楽しみに！



(おまけ)リハーサル時、高い所から砂浜に向かって映像を写してみたらとてもいい感じに。少し見えづらいなど課題はありますがまた一つ可能性が増えました！

福岡・津屋崎地区視察

ピンピン感動、グングン勇氣。
長崎って、野母崎って、いいな！
とあらためて思いました。



福津市津屋崎地区は、福岡県の福岡市と北九州市の中間に位置する人口 5 万 8000 人の小さな港町。福岡都心部まで電車で 1 時間足らずという便利な場所であるとともに、美しい砂浜や緑の木々が広がる自然豊かな場所でもあります。

そんなこのまちで、ユニークな発想と行動力でまちおこしに取り組んでいるのが、「津屋崎ランチ」。移住のサポートや新しい働き方の提案、起業のコーディネートなど、さまざまな活動に全国から注目が集まっています。

そこで、私たち野母崎夢塾のメンバーは、「津屋崎ランチ」を訪ねて、代表の山口さんのレクチャーを受けたり、スタッフの方のお話を聞いたり、空き家の活用例などを実際に見て回ったりしました。

本当の暮らし・働き方・つながりを実現する、進化するまちおこしプロジェクトとして 2009 年にスタートした「津屋崎ランチ」は、地域で楽しく活動し、たくさんの若い人達が移り住み、小さな経済をたくさん生み出すスイミー理論を実践中。まちおこしの成功の秘訣は、好きなこと×ちょっと社会にいいことをやってみる、壁にぶつかったら常識に

とらわれずに挑戦してみる、これだけなのだそうです。好きなこと、楽しいことでなければ続かない。まちおこしをやるなどと大上段に構えるのではなく、好きなことを続けていたら、気がついたら、まちが元気になっていたというような感じがいいのだと教わりました。



津屋崎で思ったこと。

小さなことから、かなえていきたいな！



「野母崎にしかできない楽しみ方、遊び方、暮らし方をみつけだそう！」「塾生 1 人ひとりの夢を野母崎でかなえよう！」「野母崎のファンを増やそう！」という思いからはじまった野母崎夢塾。今の私たちがやっていることは、まだまだ全然「津屋崎ランチ」の活動には及びませんが、自分たちの方向性はこれでよかったんだと再確認できたような感じで、感動と勇氣を与えていただきました。

これからも私たちは、あれがしたい、これがしたいと、お互いの夢を語り合いながら小さなことから少しずつカタチにしていけたらいいなと思っています。津屋崎の皆さん本当にありがとうございました。

星空観察会@Alega 軍艦島 芝生広場

いつだったか野母崎について話をした時

「野母崎の星空はきれいだよね」

というところから話が盛り上がった。とくに台風などで停電になった夜は宝石をちりばめたような星空が見えるんですよね、ということではじまった「星空観察会」。



市街地から1時間もかからないこの野母崎でこんなにも美しい星空を楽しめることを多くの人に知ってもらいたい！そんな思いから野母崎地区の星空ポイントを探し始めました。

まちの明かりが星を見るのを邪魔するので灯りの少ない場所を探すも、安全性・利便性の問題があり意外に見つかりません。

そんなとき、Alega 軍艦島様が施設横の芝生広場の利用を提案してくださり企画を進めることになりました。星空観察に邪魔なのは施設の灯りと芝生広場の横の道路沿いの外灯。イベント当日も営業日なので施設と道路沿いの外灯の灯りがありましたが、なんと観察会の間だけそれらの照明を消して協力していただけることになりました。本当に感謝！



当日はまだ夕焼けが残る頃、観察会スタート！ 明るい三日月と金星を見せてもらいながら先生の話に楽しそうに耳を傾けます。

そして夜空になって・・・

ほんとはこのタイミングで芝生広場の外灯を一斉に消し建物の灯りもシャットアウト。

すると頭の上に宝石箱が現れました！

となるはずでしたが、早めに消してしまったため暗くなるにつれて徐々に宝石箱をひっくり返したような天上の星が姿を現しました。

望遠鏡や肉眼で観察しながら参加者の皆さんは笑顔になっていつもと違う満天の星空を楽しみました。塾生が準備した「海と星にまつわるおはなし会」も大好評！あっという間に時間が過ぎて終了の時間、消してあった外灯が灯されます。すると夜空いっぱいに見えていた星たちが一瞬にして見えなくなって参加者を驚かせました。夜空を見上げることをなかなかしない街なかでも、灯りがないとこんなにきれいなんだということを大きな声で教えてあげたくなるようなその瞬間。本当に大切な灯り、本当は必要ではない灯り。星空観察会をやってみて少し考えてみてはとそう思いました。また観察会をやりたいねという話も、また観察会に参加したいねという話も出ました。次へつながる何かを持つものかもしれない星空観察会をまた計画したい！

そして星空を楽しめる町として「あかり」のあり方を考えることも野母崎地区の魅力を引き出す手段ではないかと思えます。

今回、下見の時からいろいろ協力、アドバイスしてくださった学校教諭の水頭先生・宮上先生・桑岡先生、そしてお手製の天体望遠鏡持参で来られて先生たちと一緒に参加した方たちに星を見せてくださった野田さん、本当にありがとうございました。

ありがとう亜熱帯植物園

～47年の歩みから未来を考える～

今年度にて閉園が決まった長崎県亜熱帯植物園。閉園を前に夢塾として何か企画したいと言う事で今回立ち上げたイベント。植物園の名誉園長である中西弘樹先生に『亜熱帯植物園と野母崎の自然』についての講演をして頂きました。



植物園は「Botanical(植物学) garden」であり「plant(植物) garden」ではない。植物園は単なる「テーマパーク」としての機能だけではなく、「研究施設」としてとても重要だという話はとても興味のある内容でした。

野母崎は亜熱帯気候であるか？という話では、植物の分布という点より説明して頂きました。この話を聞くまでは「亜熱帯植物園があるから亜熱帯気候だろう」という単純な考えでしたが、身近にある植物がこの気候でなければ育たないという事を初めて知りました。

また、漂着物については、海流の流れについてから始まり、植物の種や海の生物の分布について、ビーチコーミング(漂着物探し)についてなど興味の湧く話を沢山聞く事が出来ました。

講演の最後には町おこしについての提案もあり、1時間半の講演はあっという間に時間が過ぎました。中西名誉園長、貴重なお時間を本当にありがとうございました。

＜園長先生とまわる園内ツアー＞

まさに亜熱帯日和の様な気持ちの良い青空の下でのツアーは参加定員20名のところ倍以上の50名ほどの方に参加していただきました。この場所でしか自生できない植物、大温室の中にある日本最大級のシェードパイン、何年もかけて育ててきた植物全ての今後についてなどなかなか聞くことのできない貴重なお話をしていただきました。



講演当日は長崎新聞とKTNより取材があり、後日、報道していただきました。



KTN ニュース 2月22日



長崎新聞 2月20日

のもざき暮らし

塾生 T のばあい

野母崎に生まれて

昔はよかったそうだ、そこかしこに金持ちがいた・・・

小さい漁師町に金融、娯楽、芸術が集まっていた。

郷土料理はみな甘い。

イワシは買う必要がなかった。

巻き網漁師が花形職業だった。

古老の武勇伝は聞いてあげることにしている。

お金は何にかける？子どもの教育、高度な教育を受けた子どもは野母崎には残らない・・・

野母崎で育って

海で山で遊んだ。いつもどこか生傷があった。

海に山に旨いものが生ってた、居た、あった。

クロールは苦手だが素潜りは自信がある。

櫓(ろ)漕ぎは祖父から習った。

悪さをしてよそのジジイによく殴られた。

オコゼに刺されたら「このまま死ぬかもしれない」と思うほど痛い。

脇岬と野母の仲が悪いのは江戸幕府のせいだ。

同級生は大勢いる。未だにあだ名で呼び合う。

夏休みは 50 日泳いだ。

旧市内のことを「長崎」と言った。

家に鍵はついていなかった。

野母崎で暮らして

台風は辛い、「家が飛ばされるかも」という恐怖の夜が毎年のようにある。

星明りがどんなに明るいかを知っている。

水平線に沈む夕日を見た他所の人が「キレイ！」というのが理解できなかった。

しかし、嬉しかった。

街の居酒屋で刺身を美味しそうに食べる友人

の味覚を疑った。

魚の種類は 300 覚えた。

ここでは四季を花の開花、鳥の渡り、磯の色、風のにおいで感じる。

車は錆びて穴が開き生涯を終えるものと信じていた。

皆、運転が上手だ。

飲みに行くとタクシー代が飲み屋の 2~3 件分だ。

高額年金受給者の発言力は大きい！

野母崎で子育てして

「子育て中は車のガソリン切らすなよ！」先輩の言葉を最初の発熱で理解した。

野母崎の医療レベルに恐怖を感じる。

小学校の先生、児童、児童の保護者とは全員顔なじみになれた。

いい意味で競争心を持っていない。

他所の子の成長も楽しみだ。

皆、見かけ以上に素直だ。挨拶に悪い気がしない。

高校生は平日の太陽を野母崎では見れない。

ここ数年妊婦を見ない。

野母崎で仕事に就いて

長崎県の平均年収を下げた申し訳ない・・・

共稼ぎ率は世界一だと思う。

50 過ぎてても若手だ。

主要産業ってなんだろう？

想定外の休日が来る。

「野母崎？遠いね！」で採用を断られた話をよく聞く。

毎日が新鮮だ。いまだに驚きがある。

何でも自分でもやらなければいけない。

そして、できるようになる。

野母崎で・・・

「野母崎を良くしたい」なんて大それたことは思わないし出来そうにない。

でも、一生ここで暮らしていくのでできれば楽しく心地よく暮らしていきたい。

それにはどうしたらよいかを思うだけ・・・

遺骨はボラ山の沖に撒いてほしい。

のもざき暮らし

塾生 G のばあい

野母生まれの野母育ち。長崎の学校に通い、社会人になってもずっと野母崎に住んでいながら、野母崎は寝るだけの場所であり文化行事に参加する時間も機会もなかった。当時、通勤のための往復 2 時間はとてももったいないと感じたものだがいつの頃からかこの 2 時間を仕事モード⇄自分時間モードへ切り替えるための時間だと感じるようになってすごくありがたく感じるようになった。

そんな私は 1996 年、30 代後半で旧野母崎町で建築設計事務所をはじめた。

まだインターネットが普及する前の話、携帯電話が使える場所も限られていた。あたらしい情報は郵便と本が頼り、わからないことがあると長崎市内の本屋に走ったものだ。正直な話、とても不自由だったが自然豊かな野母崎を出ようとは思わなかった。

それから 5 年目、インターネット環境もよくなり、情報はインターネット経由で見つけられるようになり始めた。それでも HP を持っている企業は少なく、データも揃ってはいなかったが、このころからクライアントとはメールでの情報交換ができるようになってきた。

それから年ごとにネット環境も良くなり、

数年前からはインターネット電話を利用して 3 次元でつくった建築の画面を共有しながら打ち合わせができるようになり相手が五島でも福岡でも東京でも問題なく打ち合わせができる時代になった。仕事に必要な情報はインターネットでリアルタイムに手に入るの、現場仕事以外では野母崎から足を運ぶこともなくなってしまい、地元にはない物はネットショッピングでカバーするので暮らしのなかで不自由な思いをすることはほとんどなくなっていて、いつの間にか田舎暮らしのいいところ取りができるようになっていた。

さいわい仕事の性格上、勤務時間はフレックスである。自然豊かな田舎を楽しむには時間に縛られない仕事はうってつけだと感じる。

実は海水浴と夕焼けが大好きなのだ。気持ちよく泳げそうな暑い日には平日の仕事中でも一段落したら泳ぎに行く。いつでも泳ぎに行けるので 30 分も泳げば充分である。

そしてまた野母崎は夕焼けのメッカ、きれいな夕焼けになりそうな気配があると夕焼けのきれいな場所まで行って眺めながら写真やビデオにおさめるのが楽しみだ。(もちろん楽しんだ時間のぶんは夜の時間を利用して埋め合わせをしている。)

自然は予測できない。海水浴を楽しむにも夕焼けを楽しむにもタイミングが大事だ。そのためには、「いまそこにいること」が大切だ、となるとそこに住みそこで仕事をするのがベストなのである。

上下水道のインフラが整っている田舎は多くはない。島の自然環境で陸続きの便利さも持ち合わせている半島という野母崎の地形は、自然派のひとにとって穴場的魅力のある移住地でもあるのかもしれない。

塾生感想

濱崎 明菜

生まれたときから野母崎に住み、毎日の様に眺めていた景色が素晴らしいと気付いたのが数年前。地元活性化の為に会議に参加し、野母崎の今後について真剣に考え、野母崎夢塾に参加しました。塾では50年後の野母崎の未来へ向け私達に何ができるかということで様々なイベントを計画しました。塾のことを知ってもらう為に開催した野母崎夢塾展。展示では塾生が作った作品や野母崎暮らしのビデオ上映を行いました。海辺の映画館、星空観賞会など資源を活用したイベントでは野母崎の資源の大切さを改めて知りました。閉園が決まった長崎県亜熱帯植物園での名誉園長の講演と園内ツアーでは、植物園の意義、この場所でしか自生出来ない植物が沢山あることを知りました。

塾の活動を通して、住んでいるだけではわからないことが沢山ありました。塾の仲間はもちろん活動を通して出会った方々、野母崎の限りある資源、これら全てが財産であり未来へ残すものへ繋がるのではないかと思います。私は野母崎の魅力を知ること、気づくことが未来像を考える第一歩となるのではないかと考えています。今後も気付くことの大切さを忘れず野母崎の魅力を再発見していきたいと思います。

塾生感想

菅原 真希

野母崎暮らしをはじめて5年がたつ。いわゆる新興住宅地で育った私にとって野母崎は、独自の自然と古い歴史に溢れるとてつもない魅力を秘めた町なのである。少子高齢化や人口流出の波はこの町にもあるが、80代でも日々海に繰り出す漁師の姿を見ていると悲壮感は少ない。

そんな町の中での私の立ち位置というと、よそ者でありペーパーの若者である。町の活性化を図るときには『よそ者、若者、バカ者』がうごくといい！という話を聞いたことがあった。賛否両論あるだろうが、まさにこの《野母崎夢塾》はこの三者の集合体だと思った。一人でバカ者になるのは難しい。だけど仲間と一緒にバカ者になると面白かった！

夢塾では『50年先の未来』を考えるために《できない》ではなく《やってみよう》がたくさん積み重ねられた。

コノユビトマレで集まり始まったまった仲間こそがこの町の可能性だと思った。

活動を通して繋がった仲間と描く夢は可能性に溢れた未来に繋がっていくと思った。

《野母崎夢塾》は始まったばかり！

これからもっといろいろな仲間たちと夢を描きながら未来を築いていきたいと胸躍る！！



夢塾として考えた《未来》への提案

未来を考えるのではなく《夢》を託してみてもうだろうか

きっと未来には今より進んだ技術がある

だから

今を生きる私たちだけで未来を決めずに《余白》を残しておくのもいいのではないだろうか

《余白》とはつまり未来を生きる子どもたち孫たちに選択肢を残しておくということ

きっと彼らは残しておいた余白で新しい未来を創造していける

今の技術では建てることは簡単だけど元の状態に戻すことは難しいという現状に気付いた

技術はできることとできないことの垣根がはっきりしている

だから今を生きる私たちが創造する未来も今できることだけの集合体になってしまう

だけど夢にはできることとできないことの垣根がない

そこに可能性が広がっていく

未来は案じることがあるけど夢は案じることがない

今を生きる私たちでまずはそんな《夢》を託す選択を試してみるのもいいと思う



野母崎夢塾

塾長	三浦 豪介				
1	石川 仁	21		41	
2	石川 美奈	22		42	
3	井口 繭子	23		43	
4	小川 隆	24		44	
5	霜村 幸	25		45	
6	菅原 洋樹	26		46	
7	菅原 真希	27		47	
8	龍山 久美子	28		48	
9	西村 敏	29		49	
10	浜崎 明菜	30		50	
11	福田 和貴	31		51	
12	丸尾 考央	32		52	
13	三浦 尋生	33		53	
14	宮崎 由香	34		54	
15	森 恵	35		55	
16	山本 春菜	36		56	
17	米田 藍衣	37		57	
18	米田 伊織	38		58	
19	米田 充子	39		59	
20	米田 利巳	40		事務局員	野母崎行政センター 吉川 貴浩